

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

《上位賞》

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
林業の六次産業化	<ul style="list-style-type: none"> 本市の森林・林産業の振興のため、市がコーディネーターとなり、森林・木材業、企業、障がい者自立支援施設、郵便局、NPO等多様な主体が連携し、郵便局による木葉書「森からの手紙」、間伐材を活用した商品開発や、木材を活用した被災地支援活動を行い、地域や産業の活性化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発に係る市の財政負担なし（既存の間伐材を材料提供） 木の葉書の第1弾1,500セット、第2弾1,500セット共に完売（価格各500円） 経済波及効果は、約3,000千円 異業種間の交流・結びつきにより市内の枠を超え、東京ドームや代官山で行われたイベントでの販売を実現し、好評を得た。 	農政課	グッジョブ大賞
災害時要援護者管理システム構築	<ul style="list-style-type: none"> 県の補助金を利用して災害時要援護者管理システムを構築したことにより、大幅な事務の簡素化が図られ、担当者や民生委員の負担が軽減した。 登録者の異動情報を住民基本台帳から定期的に入手できるようになり、より実用性のある情報として利活用できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務の簡素化 民生委員の負担が年々増加する中で、民生委員の大幅な負担軽減 登録者の異動状況等を定期的に更新でき、常に最新の情報を管理できるようになった。 市の公式サイトから民生委員区割図が検索可能となり、市民サービスが向上 システム構築委託にかかる経費はすべて県の補助金を財源としたため実質的な市の財政負担なし 	福祉政策課	金賞
空ペットボトル利用による、スズメバチの女王蜂捕獲作戦	<ul style="list-style-type: none"> 毎年発生するスズメバチに対し、先制攻撃をかけるべく、捨てられた空ペットボトルを利用してトラップを作成し、市有施設に設置、これによりスズメバチの女王蜂捕獲作戦を展開した。 営巣を防ぐことで、スズメバチの発生数を抑え、駆除件数の軽減を図るとともに、市民の安全を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> スズメバチの捕獲数は、全体で95匹 平成24年度の駆除実施件数が前年度より減少（平成23年度210件⇒平成24年度142件） 駆除の依頼が減ったことで、他の業務へ時間を割くことができた。（ピーク時は蜂の駆除要望を優先して行うため、公衆便所修繕等が、後日の対応となることもあった。） 	環境保護課	銀賞

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
ロードオブアリーナ 2012	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原アリーナを舞台とした大型音楽イベントを官民の強い連携で開催した。 ・もっとも大きな会場であるメインアリーナに一番若い世代を集中させ、未来を担う彼らにすばらしい体験をして欲しいという思いを込めた。 ・小田原アリーナという大きな会場で演奏できるという“荣誉”を勝ち取るという意味を込めて、イベント名称を「ロードオブアリーナ2012」とし、イベントの性格を一目見てわかるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント関係者が当日の様子を見て「とても素人が手作りで行ったとは思えない」と驚嘆の声を上げた。 ・最小限の費用で実施 ・市民ボランティアスタッフが主に行っており、運営に携わった市職員は少数 ・このイベントを行った“チーム”のメンバーが主体となり、平成24年9月に「一般社団法人 ジャパンミュージックストリート」を設立。小田原城ミュージックストリートなどのイベントを支える、縁の下の力持ち的な存在が法人化する契機となった。 	文化政策課	銅賞
競輪場従業員経費の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原市営の競輪開催は年52日開催されるが、開催される競輪のグレードにより、入場者数、売上げともに大きく違う。 ・競輪場従業員は、この52日すべての開催において雇用される権利を有している。 ・年々売上げが落ち込む中、労働組合と調整を重ね、競輪場従業員の協力を得て、1名につき年5日、雇用しない開催日を設け、経費の削減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1名あたり年5日分（延べおよそ530人分）560万円の人件費を削減することができた。 ・これを売上げに換算すると、およそ2.8億円に相当する効果があった。 	事業課	身近な改善 大賞
一次審査へ選抜された取組数が最も多い所属（選抜された取組数：3件）			事業課	グッチーム賞

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

《奨励賞：チャレンジ部門》

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
<p>看護補助体制加算25：1の導入 「患者サービスの向上と収入増のダブル効果」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的社会問題である看護師不足の中、看護職員の負担軽減に対する取組を行った。 ・看護補助者の積極的登用により役割分担を進め、看護職等の専門職種が専門性を必要とする業務に専念することにより、安全で効率的な業務運営・良質な看護の提供を実現 ・収益面でも看護補助基準25：1を取得し貢献を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を必要としない業務を補助者が行うことにより、看護師本来の専門性が発揮され、安全でより高度な看護の提供及び補助者による身の回りのきめ細かなケアの実現が可能となった。 ・役割分担を行うことにより、看護職員の慢性的疲労の軽減に効果を発揮 ・夜勤のシフトを導入し、生活援助はもちろん、転倒、転落等の安全面からも効果を上げた。 ・看護補助者の配置25：1が報酬化され、人件費年間約8,400万円に対し、年間約9,600万円の診療報酬が見込まれる。 	<p>看護部</p>	<p>奨励賞</p>
<p>市立病院でクレジットカードによる診療費の支払い開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードで診療費（入院費、外来診療費）支払いを開始（24時間対応） ・こうした取組により、診療費の収納率アップ、滞納額の低減、滞納整理業務の効率化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サービスの向上 ・患者及び病院側の双方で、高額現金の持ち歩きや保管の必要がなくなり、防犯上の安全性が向上 ・滞納額の推移は事業開始したばかりのため具体的金額は出ていない。 	<p>医事課</p>	<p>奨励賞</p>
<p>小田原ブランド農産物まるごと体験ツアー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の主要農産物である梅とたまねぎの中でも、本市のオリジナル品種である「十郎梅」と生で食べてもおいしいと好評の「下中たまねぎ」にスポットを当て、旅行業者とタイアップし、東京・横浜からの観光客を呼び込むとともに、収穫・梅干加工・十郎梅を使った食等を楽しむツアーを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般モニターや旅行業者の意見を取り入れた企画書を作成し、参加者の満足度が高いツアーを実施 ・普段入ることがない梅園に都市周辺の消費者を招き、受け継がれてきた伝統と、梅生産現場の現状や「十郎梅」の奥深さを伝えられた。 ・「十郎梅」のツアーを実施したことで、旅行業者も小田原に興味を持ち、下中たまねぎツアーが実現した。 ・旅行業者を実施主体とすることで、補助金に頼らないPR方法を確立することができ、1度限りではなく来年度以降の継続も目途が立った。 ・小田原に対して親近感を持ってもらえた。 	<p>農政課</p>	<p>奨励賞</p>

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
複合機の導入	<ul style="list-style-type: none"> 各所管及び出先施設に配備していたモノクロプリンタに代わりカラー印刷やコピー、スキャナ機能を持つ複合機を導入した。 プロポーザル方式により導入業者を選定し、機能の充実と印刷単価の軽減を図った。 身分証明書による認証機能を導入し、情報漏えいの防止や職員による複合機の適正な利用を促進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各所管及び出先施設でカラー印刷やコピー、スキャナ機能が使用できるようになった。 印刷単価が各所管で導入していた複合機より安価になった。 身分証明書による認証機能を導入したことにより、印刷物の管理徹底が図られ、印刷物の取り間違いや印刷物からの情報漏えいを防止できるようになった。 各所管や職員の使用状況を取得できるため、複合機の適正な利用を促進できるようになった。 	情報システム課	奨励賞
指導者養成研修事業「おだわら自然楽校」における国の資格認定研修の導入	<ul style="list-style-type: none"> 青少年指導者養成研修に、文部科学省の資格認定研修「自然体験活動全体指導者養成研修」を取り入れ、受講生のモチベーションアップを図るとともに、受講生の学校や地域における指導の際の信頼度を高め、体験活動機会の増加を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 24人の受講生が自然体験活動全体指導者の資格取得に至り、受講者のモチベーションの向上とともに、小学校が実施する宿泊学習への参画が可能になった。 資格取得が9月と体験学習が多く実施される夏季を過ぎていたことから、受講生の指導者としての活動は、平成24年度は前年度の4箇所（2校2地区）から5箇所（4校1地区）と微増であったが、平成25年度は8箇所での活動を予定 資格取得研修は国の予算で対応されたことから3日間で15万円の経費節減が図られた。 	青少年課	奨励賞

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

《奨励賞：身近な改善部門》

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
特殊事例(レアケース)の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・市民からの問合せの中でも特殊な事例に対する回答に長い時間を要する場合があった。 ・市民の満足度向上を目指して、過去の対応記録の効率的な検索と課内の情報共有を同時に可能とする「特殊事例への対応記録を蓄積するデータベース」を構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に対する課税や退職所得に対する課税についての相談など、普段あまりない問合せ（特殊事例＝レアケース）を調査した内容、納税者からいただいた苦情や要望を蓄積し、類似した事例が発生した時に素早く対応することが可能になった。 ・特殊事例の調査については、法令等の解釈で解決する場合ならば1～2時間、外国人に関する内容で県や税務署に確認する内容になると1～2日を費やしているのを、納税者への素早い対応のほか、職員の事務効率も向上した。 	市民税課	奨励賞
学校徴収金未納者における就学援助費の支給方法の変更について	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助費申請時に、教材費や学校給食費等の就学援助費支給費目に未納が生じた場合は、当該就学援助費の受領に係る権限を在籍校長に委任(代理受領)してもらい、直接学校長口座へ振り込めるように変更することにより、事務の改善及び未納額の軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助費支給時において、小・中学校合計で平成24年7月分約133万円、11月分約115万円を教材費や学校給食費などの未納額へ充当した。 ・平成25年3月も11月分と同程度の充当額が想定される。 	教育指導課	奨励賞
食の自立支援(配食サービス)事務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養改善が必要な高齢者に対して実施している食の自立支援事業(配食サービス)の利用者が増加する中、申請処理や利用者管理などの事務負担の軽減を図るため、利用者の情報等をデータベース化したシステムを構築し、当該事務に係る人件費の軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムを活用することにより、申請事務や利用者管理、各種問合せ対応に係る作業時間を削減することができた。 	高齢福祉課	奨励賞

平成24年度「グッジョブおだわら」における結果と取組内容

実施事業名	取組の内容	主な効果など	課名	審査結果
児童相談業務に手作りシステムを導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースの情報共有をしやすくし、統計処理の時間も大幅に短縮するため、紙ベースで管理していた児童相談業務（虐待相談）に、職員の手作りによるシステムを導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの導入により、迅速で正確な対応が求められる児童相談業務（虐待相談）において、係内でケース記録を共有でき、ケース対応や統計業務についての時間が短縮された。 ・業者作成のシステム導入ではなく、職員が作成したシステムを導入することにより費用を節約した。 	子育て政策課	奨励賞
窓口手数料等の報告書作成ファイルの運用開始	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理の簡素化、支所間の事務処理の統一化や管理係における集計管理体制の効率化を図る必要があったことから、エクセルで開発したシステムにより、日々の集計や月末の出納事務等の報告書などを正確に作成し、事務処理の効率化、統一化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各支所等で統一的な取扱いが可能となり、事務処理の正確性、迅速化及び効率化が図られた。 ・管理部門で統一管理ができ、それを基に他への応用が期待できる。 	戸籍住民課	奨励賞